

Sun. Nov 8, 2020

A会場

教育講演 | ライブ

【質疑応答・ディスカッション】令和の老年歯科は炎症消退を通して全身の健康に寄与する ～糖尿病・認知症領域から歯科が注目される時代～

座長:水口 俊介(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)

4:30 PM - 4:40 PM A会場

[EL3] 令和の老年歯科は炎症消退を通して全身の健康に寄与する ～糖尿病・認知症領域から歯科が注目される時代～ 令和の老年歯科は炎症消退を通して全身の健康に寄与する ～糖尿病・認知症領域から歯科が注目される時代～

○西田 亙¹ (1. にしだわたる糖尿病内科)

教育講演 | ライブ

【質疑応答・ディスカッション】令和の老年歯科は炎症消退を通して全身の健康に寄与する ～糖尿病・認知症領域から歯科が注目される時代～

座長:水口 俊介(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)

Sun. Nov 8, 2020 4:30 PM - 4:40 PM A会場

【略歴】

1987年：

東京医科歯科大学大学院歯学研究科 修了

1989年：

東京医科歯科大学歯学部高齢者歯科学講座 助手

2001年：

米国ロマリンダ大学歯学部Visiting Research Professor

2008年：

同大学大学院医歯学総合研究科全部床義歯補綴学分野教授

2013年：

同大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野教授

【抄録】

糖尿病と歯周病の関連が議論され始めて久しい。1990年アメリカインディアンにおける大規模な疫学研究から糖尿病患者における歯周病発症率は非糖尿病患者に比べ2.6倍高いことが報告された。またこの追跡研究によるとHbA1cが9.0以上になる確率は重度歯周病患者において軽度歯周病患者の6倍となることが報告されている。きわめて多くの論文が産出され、糖尿病と歯周疾患の関連についてはほぼ周知事項となり、糖尿病治療と歯周治療のコラボへの期待から診療報酬の中に【P処（糖）】が設定された。

歯周病におけるプラークの炎症反応から歯周組織においてIL-1, IL-6, TNF- α といった炎症性サイトカインが産生され、全身的な血清レベルでのCRPの上昇が起きる。そのため歯周治療による局所の炎症の抑制が全身レベルでのCRPの低下につながりHbA1cの低下をもたらしていると考えられている。このメカニズムは糖尿病だけでなく虚血性心疾患などの動脈硬化性疾患、早産・低体重児出産との関連においても議論されている。

本日、西田先生からはご専門である糖尿病だけでなく認知症の観点からも議論いただく。ご承知のように我が国では8020達成者が50%を超えており、歯がないことによる様々な機能低下や栄養障害、QOL低下は回避できるようになるであろう。しかしながら歯があることによって発生するう蝕（根面う蝕）と歯周病への対策は喫緊の課題である。またこれらの問題は老年期に差し掛かる前の時期、或いは前期高齢者の段階からアプローチし適切な習慣を獲得させなければならない。

この講演で、多くの国民が快適な口腔で老年期を迎えられるようにわれわれ歯科医療関係者はなにをしなければならないかを強く意識するためのモチベーションを西田先生はわれわれに与えてくれるに違いない。

[EL3] 令和の老年歯科は炎症消退を通して全身の健康に寄与する ～糖尿病・認知症領域から歯科が注目される時代～ 令和の老年歯科は炎症消退を通して全身の健康に寄与する ～糖尿病・認知症領域から歯科が注目される時代～

○西田 互¹（1. にしだわたる糖尿病内科）

(Sun. Nov 8, 2020 4:30 PM - 4:40 PM A会場)

[EL3] 令和の老年歯科は炎症消退を通して全身の健康に寄与する ～糖尿病・認知症領域から歯科が注目される時代～

○西田 亙¹ (1. にしだわたる糖尿病内科)

【略歴】

1988年：

愛媛大学医学部卒業

1993年：

愛媛大学大学院医学系研究科修了 (医学博士)

1994年：

愛媛大学医学部・第二内科 助手

1995年：

大阪大学大学院医学系研究科・神経生化学 特別研究員

1997年：

大阪大学大学院医学系研究科・神経生化学 助手

2002年：

愛媛大学医学部附属病院・臨床検査医学(糖尿病内科) 助手

2008年：

愛媛大学大学院医学系研究科・分子遺伝制御内科学(糖尿病内科) 特任講師

2012年：

にしだわたる糖尿病内科 開院, 現在に至る

人生100年時代という言葉が耳目を集めるようになったが、この言葉の裏には、恐ろしい事実が隠されている。英国の研究機関によれば、2007年生まれの日本の子供達は、その半数が107歳まで生きることが予測されている。健康な百寿者が増えるのであれば良いが、平成28年の時点で65歳以上の高齢者は医療費全体の6割(26兆円)を消費しており、日本人の生涯医療費は平均で2700万円にも達している。医療費だけではない。介護費もまた、90歳前半で年間132万円、95歳以上では202万円を必要としている。

これから40年間をかけて、子どもと納税者が4000万人減少していく中で、我々は子や孫に、膨大な経済的負担を強いることになる。すなわち、今のままでは令和は「経済的子孫虐待」が顕在化する時代になってしまうだろう。この悲劇をいかにすれば防ぐことができるのか？演者は、問題回避に至るための鍵は、歯科医療が握っていると信じている。その根拠を「炎症制御」という観点から、内科医の立場で論じてみたい。

2018年6月、アムステルダムで開催された EuroPerio9において、アメリカおよびヨーロッパの歯周病学会は、19年ぶりに新しい歯周炎分類を発表した。この分類表の中に、「HbA1cと高感度 CRP」が登場している。なぜ、歯周炎の新分類が「糖尿病と慢性炎症」に配慮することになったのか？その理由と背景を知ることこそが、日本国民が令和の歯科医療に期待するものを知るための鍵となる。

加えて2019年1月、Science Advances誌に掲載された衝撃的な学術論文が、世界中を驚嘆させた。アルツハイマー病患者の脳組織中に *P. gingivalis* とその分泌酵素であるジンジパインが集積している事実が明らかになり、動物実験によりジンジパイン阻害薬の有効性が示されたのである。このジンジパイン阻害薬は、既にアルツハイマー病患者を対象にした第2/3相臨床試験が、欧米で実施されている。晴れて臨床試験が完了し、ジンジパイン阻害薬がアルツハイマー病治療薬として上市されれば、「世界中の人々が認知症予防のために歯科外来に殺到する」ことは間違いないだろう。

本講演では、「不健口」がもたらす全身疾患に関する最新知見と、老年歯科医療に期待されるものを医科の視

点から紹介する。

- ・ COI開示：昭和薬品化工(株), バイオガイアジャパン(株), 医歯薬出版(株)